

那須塩原市ゼロカーボンコンソーシアム

# MVV素案

## 那須塩原市の 2050年カーボン・ニュートラル達成に 寄与する

※「那須塩原市ゼロカーボン・コンソーシアム 目的」より抜粋  
2050 Sustainable Vision 那須塩原の1つの柱であるカーボンニュートラル、  
すなわち脱炭素社会の実現に資することを目的とする。

## 人と企業がつながり、脱炭素を通じて那須塩原市の未来をともにつくる場とする



ネットワーク  
構築

業種・規模を問わず**企業と市がつながる開かれた場**であり、  
連携を通じて脱炭素を中心にしながら、  
それに縛られない**多様な協同と情報共有**が生まれる場とする。



脱炭素化  
促進

**脱炭素経営の普及啓発**により取組を促進しつつ、  
あらゆる事業者が**取組段階に関わらず参加価値を得られ**、  
会員同士で支援し合える場とする。



市民への  
影響

コンソーシアムの活動を通し、  
企業だけでなく市民にも取組意義と那須塩原市の魅力を伝え、  
**住みたいと思えるまちづくり**に寄与する。

## 【ビジョン】

## 【バリュー】

ネットワーク  
構築

開かれたつながり

対話で前に進む

業種や規模、取組段階を問わず、だれでも話せる・参加できる場にする。

一方通行にせず、意見を聞き合い、成功も失敗も分かち合う。本音で話せる対話と学び合いを大切にする。

## 脱炭素化促進

動くことが大事

導線の一本化

会社の役に立つ

全社で取り組む

小さく始めて、試し、学びながら続ける。参加して終わりではなく、行動し続けるサイクルを確立する。

現状把握⇒実行⇒見直しの導線に沿い、入口から実践までを先を見通しワンストップで取り組める仕組みを整える。

売上やコストへの効果を重視し、“取り組むと得になる”を見える形にする。

担当者だけにせず、会社全体で取り組む文化と人材を育てる。現場が動きやすい工夫を一緒に考える。

## 市民への影響

伝わる形で届ける

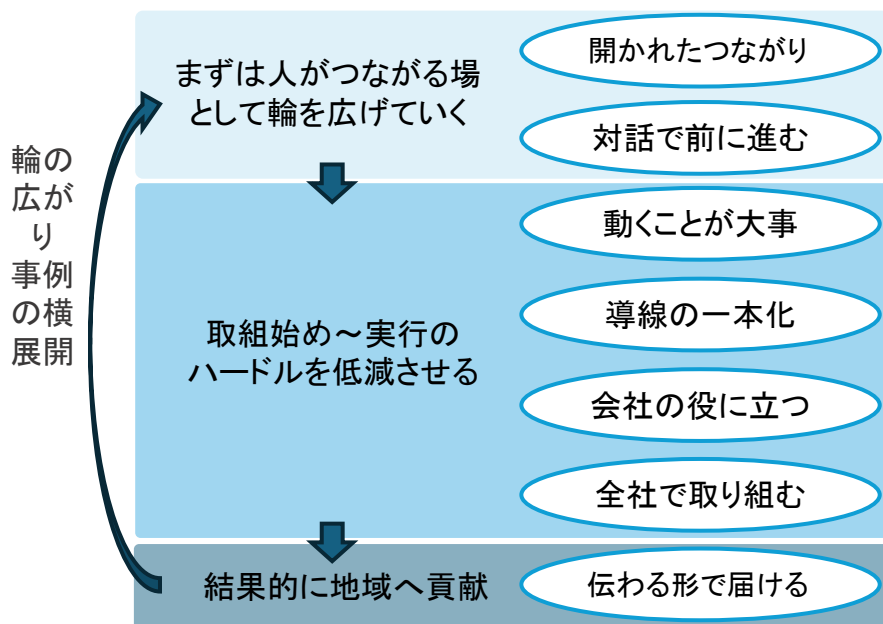
脱炭素のメリットと地域の良さを、企業だけでなく市民にも届く言葉で広げる。

## ■ バリューの要素をもとに、コンソーシアム運営における考え方を整理。

### □バリューの要約文

**事業者同士・市がつながる場として輪を広げ、  
取組の開始～継続までをワンストップで支える**

### □考え方



業種や規模、取組段階を問わず、**だれでも話せる・参加できる** 場にする。

一方通行にせず、意見を聞き合い、成功も失敗も分かち合う。本音で話せる **対話と学び合い** を大切にする。

小さく始めて、試し、学びながら続ける。参加して終わりではなく、**行動し続けるサイクル** を確立する。

現状把握⇒実行⇒見直しの導線に沿い、**入口から実践までを先を見通しワンストップで** 取り組める仕組みを整える。

売上やコストへの効果を重視し、**“取り組むと得になる”** を見える形にする。

担当者だけにせず、**会社全体で取り組む** 文化と人材を育てる。現場が動きやすい工夫を一緒に考える。

脱炭素のメリットと地域の良さを、**企業だけでなく市民にも届く** 言葉で広げる。

## MVV完成イメージ

**Mission**(目指すべきゴール)

那須塩原市での 2050年CN達成に寄与する

**Vision**(対内・対外的なあるべき姿)

人と企業がつながり、脱炭素を通じて那須塩原市の未来をともにつくる場とする

- ・「ネットワーク構築」 : 業種・規模を問わず 企業と市がつながる開かれた場であり、連携を通じて脱炭素を中心 にしながら、それに縛られない 多様な協同と情報共有が生まれる場にする。
- ・「脱炭素化促進」 : 脱炭素経営の普及啓発により取組を促進しつつ、あらゆる事業者が 取組段階に関わらず参加価値を得られ、会員同士で支援し合える場とする。
- ・「市民への影響」 : コンソーシアムの活動を通し、企業だけでなく市民にも取組意義と那須塩原市の魅力を 伝え、 住みたいと思えるまちづくりに寄与する。

**Value**(行動指針)

事業者同士・市がつながる場として輪を広げ、取組の開始～継続までをワンストップで支える

- ・「開かれたつながり」 : 業種や規模、取組段階を問わず だれでも話せる・参加できる場にする。
- ・「対話で前に進む」 : 一方通行にせず、意見を聞き合い、成功も失敗も分かち合う。本音で話せる 対話と学び合いを大切にする。
- ・「動くことが大事」 : 小さく始めて、試し、学びながら続ける。参加して終わりではなく 行動し続けるサイクルを確立する。
- ・「導線の一本化」 : 現状把握→実行→見直しの導線に沿い、入口から実践までを先を見通しワンストップで取り組める仕組みを整 える。  
: 売上やコストへの効果を重視し、“取り組むと得になる”を見える形にする。
- ・「会社の役に立つ」 : 担当者だけにせず、会社全体で取り組む文化と人材を育てる。現場が動きやすい工夫を一緒に考える。
- ・「全社で取り組む」 : 脱炭素のメリットと地域の良さを、企業だけでなく市民にも届く言葉で広げる。
- ・「伝わる形で届ける」